

今日のみ言葉 277 「人を潤す者は、自分も潤される」

2018. 3. 10

人を潤す者は、自分も潤される。(箴言11の25より)

He that wateres shall be watered also himself.

この世界には、物理の万有引力などの力学的法則やさまざまな化学反応などに見られる法則とともに、精神世界においても法則がある。

聖書とは、そうした法則を一貫して記した書物である。

ここにあげた言葉もそうした精神世界の法則の一つである。

人を潤す—それはいろいろな意味を含んでいる。貧しい人、食物もないような人たちは以前の日本にはたくさんいたし、現在も世界の国々には多く存在する。そうした人たちに愛の心で何らかの食物などを提供することは、他者を潤すことにつながる。そうした見えるものだけでなく、目に見えない愛や真実といったよきものを他者の魂にもものをもたらそうとするときには、その人自身もよきもので潤される。

私たちは自分自身さえなかなか潤すことはできず、心が渇き、悩み、動揺することもしばしばである。

そのような現状をみるとときには、他者を潤すなどとてもできないと思う。

それが可能となるのは、私たち自身がまず、あらゆる潤いと祝福の根源である神によって魂が潤され、その潤いを他者に分かるときだけであろう。

そのために、私たちが不完全な人間であるにもかかわらず、他者を少しでも潤すことができる道が開かれている。

それは、神に潤された人たちの書いたよき書物、印刷物を提供することであり、さらには、それもなくとも、できるのは、真実な他者への祈りである。

私たち自身も 十分には潤されていない者であってもなお、こうしたことはできる。他者のことを覚えつつ、他者に神様からの潤いが注がれるようにと祈る。

それは、いま現在の私たちの不十分な存在を自覚しつつもなお可能なことである。

いつも喜べ、いつも感謝せよ と使徒パウロは語りかけている。そのようなことができる心とは、つねに神によって潤されている心だと言えよう。

この世の人がみな、清い潤いの水—いのちの水の水源である神に結びつくこと—それこそが私たちの共通の目標である。



リンドウにはいろいろなものがありますが、その深い青紫色に心惹かれるものが多いです。私が半世紀以上前に京都府北部の由良川源流地帯で出会ったリンドウは、一日歩いても誰一人見かけないほどの奥深い山深いところでもあり、年月を経てもその記憶は鮮明に残っています。単に美しい花、というより、魂の深いところにとどまる花でした。

地元徳島県の剣山（標高1955m）の山頂近くなどにも、リンドウは見られ、もっと低い山々でもアサマリンドウといったあまり目立たないものもあり、春にはハルリンドウ、フデリンドウといった春を告げる可憐なものもあります。かわったところでは、つる性のツルリンドウなどもあります。

この写真のエゾオヤマリンドウは、大雪山（旭岳）での撮影で、エゾリンドウの高山型とされています。花は、写真のように茎の先だけにつきます。これに対して、山地の湿地に咲くエゾリンドウは、花付きが良く、園芸種の母種になっていて、私たちが花屋で見かけるリンドウの花束は、そのエゾリンドウからつくられたものです。

この写真では、まだ開いていないつぼみですが、その色は濃い青紫色で、何か思い秘めたようなたたずまいです。じっさい、自然の草木はそれぞれに小さきもの、目立たない花から大きな美しい花、そして低木から大木までそれぞれに、創造者である神様の思いがそこに秘められています。 私たちも、少しでもその無限の神のお心から何かよきものを汲み取ることができればと思います。（写真・文ともT.YOSHIMURA）